



ラ・ミランドのレセプションデスク。壁に掛けられた年代物のゴブラン織りタペストリーが存在感を放つ



アンティーク家具や古美術絵画などの調度品を惜しみなく配し、まるで美術館のような華麗な貴族の館である



朝食は専用の「Breakfast Room」を用意しており、教皇庁宮殿を望みながら優雅なひと時を楽しめる



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。

## ラ・ミランド, アヴィニョン La Mirande, Avignon

[www.jhrca.com/worldhotel?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel?cat42)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



「La Mirande Avignon」の正面ファサード。17世紀には枢機卿の邸宅であったという由緒正しき建物は、ホテル全体に漂う上品な雰囲気とその名残を感じることができる



ミシュラン1ツ星レストラン「The Restaurant」の華麗な店内

アヴィニョンでいちばんと評判の本格派のフレンチが堪能できる



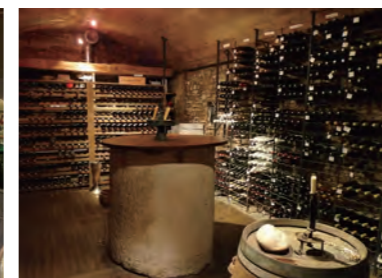
ホテル建物の中心に位置する「Living Room」。天窓から注ぐ陽光で明るいラウンジだ



華麗なシャンデリアがきらめく「La Mirande red lounge」のゴージャスな空間



「La Mirande red lounge」に隣接して用意されたかわいらしいバーコーナー



地下にある「Chef's Table」に付属したワインセラー



約45㎡の広さを持つ「Grande Deluxe Room」。部屋全体がカラフルなプロヴァンス柄のファブリックで装飾され、女性的でエレガントな雰囲気が印象的である



古典的なツインのシンクをはじめ、クラシカルな雰囲気のバスルーム  
控えの間から見たベッドルーム。調度品など18世紀ルイ16世様式の気品ある空気が漂う

アヴィニョンと言えば真っ先に浮かぶのがアヴィニョン教皇庁であろう。14世紀初頭にカトリックの総本山であるローマ教皇庁がアヴィニョンに移され、以来68年間にわたり教皇庁として機能していた。「La Mirande」はそんなアヴィニョンのシンボルである教皇庁宮殿の真裏に位置するという、これ以上ない風格ある場所に建っている。17世紀には枢機卿の邸宅であったという由緒正しき建物を、1990年にホテルに改装したもので、まるで美術館のような華麗な貴族の館である。アンティーク家具や古美術絵画などの調度品を惜しみなくそこかしこに配し、18世紀ルイ16世様式の気品ある雰囲気、滞在するだけで往時の気分に思いをはせる満足感に浸れる。

アヴィニョンは南仏プロヴァンスの中心都市で、教皇庁宮殿はヨーロッパ最大のゴシック宮殿と言われる。いわゆる「アヴィニョン捕囚」(教皇のパピロン捕囚)は、1309年から77年に教皇グレゴリウス11世がローマに戻るまでの7代68年間にわたってこの「捕囚」が続いた。この間、アヴィニョンは事実上の「キリスト教世界の首都」となっていた訳だ。

「オテル・パティキュリエール」、これは個人のお屋敷を意味する言葉だが、枢機卿の邸宅であったラ・ミランドは、教皇庁宮殿の裏手にひっそりと建ち、ホテルの名も入り口に小さく記されているだけで、知らなければ通り過ぎてしまう。筆者にアサインされた部屋は約45㎡の広さを持つ「Grande Deluxe Room」で、部屋全体がカラフルなプロヴァンス柄のファブリックで装飾され、女性的でエレガントな雰囲気が印象的だ。ホテル建物の中心に「Living Room」があり、天窓から注ぐ陽光で明るいラウンジはアフタヌーンティーでにぎわっている。食事ではミシュラン1ツ星レストラン「The Restaurant」があり、アヴィニョンでいちばんと評判の本格派のフレンチが堪能できる。また、クッキングスクールも併設されており、伝統的なフランス料理のレッスンを英語で受講でき、海外からの受講生も多い。朝食は専用の「Breakfast Room」を用意しており、教皇庁宮殿を望みながら優雅なひと時を楽しめる。

アヴィニョンには教皇庁以外にも、童話「アヴィニョンの橋の上で」で有名な「サン・ベネゼ橋」があり、教皇庁宮殿とサン・ベネゼ橋がセットで「アヴィニョン歴史地区」として世界文化遺産に登録されている。ラ・ミランドは抜群の立地と由緒ある歴史的建物を同時に楽しめる、数少ないホテルの一つと言える。

世界のリーディングホテルから厳選  
ホテルジャーナリスト  
小原康裕 渾身の写真集

絶賛発売中

A4変型 フルカラー 128ページ  
3,000円(本体価格)

[www.obtapub.co.jp/worldhotel/](http://www.obtapub.co.jp/worldhotel/)

